

令和4年度
事業報告書

社会福祉法人スキーム福祉の会

令和4年度事業報告書

I. 総括

令和4年度も昨年と同様に新型コロナウイルスに翻弄された1年でした。8月には特養従来型でクラスターが発生し、ご利用者や関係機関に多大なご迷惑とご心配をお掛けしました。特養部門では、感染対策に必要な物品を購入するため、多額の経費が必要となりましたが、県からの補助金支給等がありましたので大きく影響することはありませんでした。しかし、感染対策を万全に期するため、職員及びご利用者へ感染対策のための制限を強化したため、特に在宅部門のデイサービスやショートステイについては稼働率に大きく影響してしまいました。現在は、新型コロナウイルスも感染症法分類で2類相当から5類へと引き下げが行われましたが、今後もクラスターを発生させないように感染予防に努め、職員及びご利用者の安全確保に細心の注意を払って参りたいと思います。

令和4年度の重点取組5項目について以下報告します。

1. サービスの質の向上

入所・在宅部門ともに、ご家族や関係機関、当施設の関係職種間の連携を密にし、報告・連絡・相談を徹底することで、出来る限りご利用者のニーズに沿ったサービス提供に繋げることが出来ました。また、新型コロナウイルスの影響で施設外研修への参加が減少する中で可能な限りオンライン研修を活用し、知識の習得に努めました。

2. 組織の活性化

特養部門では、ユニット毎に各リーダーが介護職員の人材育成に注力したことで、先を見据えた介護、根拠に沿った介護が今まで以上に実践できるようになりました。併せて職員が自発的に自ら考え、業務に取り組む姿勢もみえてきました。

在宅部門では業務内容の見直しを行うことで業務分担の明確化と効率化を図り、担当者以外でも業務の遂行が行えるよう横の連携の強化を図ることが出来ました。

3. 感染症対策の徹底

入所部門では従来型特養にて新型コロナウイルス感染症のクラスターを発生させ、ご入居者及びそのご家族に多大なご心配をお掛けしてしまいましたが、感染対策を講じるべく、マニュアルを作成したり、コロナ対策会議も随時開催することで、ご入居者の方に安心して生活して頂けるよう対策を徹底しました。

また、ショートステイや在宅部門（デイサービス）についてはコロナ禍でご利用をお断りするケースも多々ありましたが、ご家族やケアマネジャー及び職員間の連携を密に行うことで、多職種連携のもと、可能な限りニーズに沿ったサービス提供が行えるように努めました。

4. リスクマネジメント

介護事故や交通事故等については、発生原因の分析・改善策について各ユニット会議で協議を行い、再発防止を徹底した結果、大きな事故を発生させることなく1年を過ごすことが出来ました。

しかし、ヒューマンエラーによるヒヤリハット・事故の件数は減少させることが出来ませんでした。

た。

5. 防災対策

今年度は、有事に備えて非常用発電機を（従来型特養、ユニット型特養、ケアハウス）3台設置しました。また、手動用発電機も入所部門の事業所毎で定期的にチェックを行い、万一災害が発生した場合でもすぐに使用できるように対策を講じて参りました。

6. 地域貢献（地域交流・貢献委員会）

家庭や施設等で余った食品を集め、支援が必要な各種団体へ届けることで食品ロスを困っている方への支援に繋げる「フードドライブ」に参加しました。市内会場にて次々に市民の方や施設の方が持ち寄ってくださる食品を登録・仕分けする作業を行いましたが、大勢の方が食品を持参され、作業が追い付かないほどの盛況振りでした。

また、令和4年度総社市災害ボランティアセンター設置演習に、2名が参加しました。土嚢づくりや地域住民に災害に備えているか等の聞き取りを行い、有事の際の災害ボランティアの活動イメージづくりが出来たと思います。

そして、食品を取りに来ることが困難な方への支援として、数多く様々な施設等へ食品配布場所を設置し、利用しやすくするための取り組み「フードドライブ」に法人として年間を通じて参加しました。実績としては、やはり施設が丘の上にある為か、利用者は0名でした。

7. 働き方改革の始動

当施設の職員が望む働きやすい職場とはどんなことかを把握することを目的に職員全員に対して自由記述でアンケートを実施し、法人として福利厚生・業務改善など全ての意見に対し返答いたしました。また、職員の働きやすい職場づくりとして、令和5年4月より職員のリフレッシュ休暇の増加、次期の介護に関する記録ソフト（ICT化）の導入を決定致しました。

II. 職員構成等

（令和5年3月31日現在）

事業所名	職種	員数
特別養護老人ホーム	施設長	1名（ケアハウス施設長兼務）
	生活相談員	2名（内ショートステイ1名）
	特養部長	1名
	機能訓練指導員	1名
	看護職員	8名（内パート5名）
	介護職員	46名（内パート4名）
	管理栄養士	1名
	介護支援専門員	1名
	用務員	1名
デイサービスセンター	在宅部長	1名

	在宅課長 管理者 生活相談員 看護職員 機能訓練指導員 介護職員	1名 1名（兼務 1名 生活相談員） 2名（兼務 2名 管理者・介護職員） 2名（兼務 2名 機能訓練指導員）（内パート1名） 2名（兼務 2名 看護職員） 9名（兼務 1名 生活相談員） （内パート2名）
居宅介護支援事業所	ケアマネジャー	1名（兼務 1名 管理者）
ケアハウス	管理者 生活相談員 介護職員	1名（特養施設長兼務） 1名 2名（内パート2名）
地域包括支援センター	主任介護支援専門員 看護師 社会福祉士 支援計画担当者	1名 1名 1名（管理者兼務） 3名
全事業所兼務	事務員	2名（全事業所共通）

在職職員の資格取得状況（取得者数は重複含む）

資格名	取得者数	所属別			
施設長	2名	特養	2		
看護師	7名	特養	5	在宅	2
准看護師	4名	特養	3	在宅	1
介護福祉士	66名	特養	49	在宅	17
社会福祉士	9名	特養	2	在宅	7
作業療法士	1名	特養	1		
精神保健福祉士	2名			在宅	2
介護支援専門員	11名	特養	4	在宅	7
主任介護支援専門員	3名			在宅	3
社会福祉主事	23名	特養	12	在宅	11
管理栄養士	1名	特養	1		

Ⅲ. 社会福祉法人スキーム福祉の会 理事会・評議員会 開催状況

(理事会)

開催日	出席者	主な議決事項
R4.6.9	理事 6名	職員給与規程の一部変更について

	監事 1名	<p>特別養護老人ホームグリーンアンドリバーホーム（従来型・ユニット型）運営規程の一部変更について</p> <p>グリーンアンドリバーホーム短期入所生活介護（従来型・ユニット型）運営規程の一部変更について</p> <p>グリーンアンドリバーホームデイサービスセンター運営規程の一部変更について</p> <p>グリーンアンドリバー介護支援センター運営規程の一部変更について</p> <p>介護予防ケアマネジメント・介護予防支援（総社市中央部南地域包括支援センター）運営規程の一部変更について</p> <p>ケアハウスグリーンアンドリバーホーム運営規程の一部変更について</p> <p>令和3年度事業報告について</p> <p>令和3年度収入支出決算について</p> <p>定時評議員会の日時・場所・議案等について</p>
R4.9.22	<p>理事 6名</p> <p>監事 2名</p>	<p>育児・介護休業等に関する規則の一部変更について</p> <p>特別養護老人ホームグリーンアンドリバーホーム（従来型・ユニット型）運営規程の一部変更について</p> <p>グリーンアンドリバーホーム短期入所生活介護（従来型・ユニット型）運営規程の一部変更について</p> <p>グリーンアンドリバーホームデイサービスセンター運営規程の一部変更について</p> <p>グリーンアンドリバー介護支援センター運営規程の一部変更について</p> <p>介護予防ケアマネジメント・介護予防支援（総社市中央部南地域包括支援センター）運営規程の一部変更について</p> <p>ケアハウスグリーンアンドリバーホーム運営規程の一部変更について</p> <p>令和4年度第一次収入支出補正予算（案）について</p> <p>評議員会の日時・場所・議案等について</p>
R4.12.15	<p>理事 6名</p> <p>監事 2名</p>	<p>令和4年度第二次収入支出補正予算（案）について</p> <p>評議員会の日時・場所・議案等について</p>
R5.3.16	<p>理事 6名</p> <p>監事 2名</p>	<p>令和4年度第3次収入支出補正予算（案）について</p> <p>嘱託職員取扱規程の廃止について</p> <p>嘱託職員賃金規程の廃止について</p> <p>職員就業規則の一部変更について</p> <p>令和5年度事業計画（案）について</p> <p>令和5年度収入支出予算について</p>

		理事・監事の選任候補者（案）について 評議員会の日時・場所・議案等について
--	--	--

(評議員会)

開催日	出席者	主な議決事項
R4.6.24	評議員 5名 監事 1名	令和3年度事業報告について 令和3年度収入支出決算について
R4.9.30	評議員 7名	令和4年度第1次収入支出補正予算（案）について
R4.12.23	評議員 7名	令和4年度第二次収入支出補正予算（案）について
R5.3.24	評議員 5名	令和4年度第3次収入支出補正予算（案）について 令和5年度事業計画（案）について 令和5年度収入支出予算（案）について

IV. 事業所別報告

1. 管理・運営部門

1. 防災教育及び訓練

実施日	訓練内容
R4.7.22	夜間想定 通報、避難誘導、伝達訓練 防災監視盤・火災報知機の実施訓練
R4.10.28	昼間想定 通報、避難誘導、伝達訓練 防災監視盤・火災報知機の実施訓練

2. 職員研修

①施設内研修

研修月	研修名	出席者	講師等
4月	サービス規則の説明 ハラスメント防止に資する研修	91名 100%	資料配布
5月	感染症予防研修①（食中毒）	91名 100%	資料配布
6月	身体拘束廃止研修①	91名 100%	資料配布
7月	事故防止研修①	89名 100%	資料配布
8月	防災研修	87名 100%	資料配布

9月	虐待防止研修	86名 100%	資料配布
10月	看取り研修	85名 100%	資料配布
11月	感染症予防研修② (ノロ・インフル)	85名 100%	資料配布
12月	褥瘡予防研修 身体拘束廃止研修②	86名 100%	資料配布
1月	事故防止研修②	88名 100%	資料配布
2月	認知症研修	88名 100%	資料配布
3月	交通安全に資する研修	88名 100%	資料配布

※施設内職員研修の平均出席率 100%

②施設外研修

全国・岡山県老協・岡山県社協や各種団体が開催する各種研修会へ年間 35 回、延べ参加人数 74 名が参加致しました。今年度は新型コロナウイルスの影響により最低限の研修しか開催されず、参加回数は激減しました。

1. 特別養護老人ホーム（従来型）

1. サービスの質の向上

従来型特養では、稼働率目標 97.5%に対し 98.4%の稼働率で 1 年を終えることができました。ただ、8 月には新型コロナウイルス感染症のクラスターを発生させてしまい、ご入居者及びご家族の方にご心配とご迷惑をお掛けしてしまいました。今後は、新型コロナウイルス感染症対応マニュアルに沿って各職種が共通認識のもと、的確に対応し、ご入居者が安心して生活して頂けるように努めて参ります。

行事活動については、ユニット毎に工夫を凝らし、多くの行事を計画しご入居者には季節を感じながら楽しく過ごしていただくことができた 1 年であったと思います。

ショートステイについては、稼働率 85.0%を目標に困難ケースや医療の必要な方の受け入れを積極的に行って参りましたが 81.8%という稼働率で 1 年を終えることとなりました。コロナ禍の中、ご利用をお断りするケースもあり、来年度はさらに稼働率向上に向けて尽力して参ります。

〈ケアマネ・相談員〉

- ・今年度も県内外においてコロナ感染の拡大が繰り返され、職員の感染も散発するなどしたため、ご家族が希望される面会制限を解除することができませんでした。ご家族に少しでも安

心して頂くために、居室担当者からご家族に対して手紙や写真でご様子をお伝えしました。また、看取り期のご入居者にはご家族の面会を可能な限りお受けし、看護・介護職員と協同してご様子などをお伝えし、ご相談に応じました。

- ・虐待事例を生じさせることなく支援を行うことができました。ご入居者の心身の状態の安定のための医療的介入を実施するとともに、ストレスから職員が不適切ケアを生じてしまうことがないように、研修を通じて職員自らの気づきを促すよう努めました。
- ・ご入居者お一人おひとりの生活歴やご意向、関係職種からの情報や記録等、様々な情報から現在の状況把握を行い、個々に合わせたケアマネジメントに努めました。
- ・個々のケアプランに沿った細やかなケアを実践するために、介護副主任と協働して、業務改善や人材育成に取り組みましたが、新型コロナウイルス陽性に伴う職員の休業が相次ぎ、計画を思うように進めることができませんでした。引き続き、多角的な業務改善と人材育成に取り組み、多職種と連携して質の高いチームケアの提供を目指します。

〈看護〉

- ・多職種からご入居者の状態を確認したり、必要時には自ら直接ご入居者を観察して異常の発見や緊急性の有無を判断し、速やかに対応することが出来ました。また、倫理観についても勉強会や行動チェックリスト等を用いて定期的に自己評価を行いました。その結果、看護師のご入居者への声かけや対応は徐々に変化し、ご入居者本位で質の高いサービスに繋げることが出来ました。
- ・8月に新型コロナウイルス感染症のクラスターが発生しましたが、前年度のユニット型特養でのクラスター発生の経験を生かし、多職種連携のもと速やかに対策を講じることができ、感染者は西ユニットのみで他ユニットへの感染拡大を発生させることなく終息することができました。また、今回の経験をもとに「新型コロナウイルス対応マニュアル」の内容を再検討し、「特養ユニット型用」「特養従来型用」の2種類に分けて新たなマニュアルを作成しました。看護師全員が同じレベルで対応できるよう情報の共有にも努めました。

〈介護〉

- ・ご入居者としっかりと関わりを持ち充実したケアを図るため、業務の見直しを行いました。業務改善後にアンケートを実施し、職員間で目的意識を再確認したことで、ご入居者と関わりを持つ意識を高めることが出来ました。今後はさらに専門性を深め、状態変化に対応できる細やかなケアが提供できるように努めます。
- ・ユニット毎で介護職員を選り、目標と課題を設定して自発的に行動できる人材育成に取り組みました。リーダー会議で起動修正を行いながら進めていくことで、自ら考える力や発信力がつき、職員にも少しずつ変化が見られました。今後は、他職員にも幅を広げ、継続して取り組んで参ります。

〈栄養（給食）〉

- ・食事摂取基準を基に介護状態及び食事形態を考慮した献立を作成し多職種連携のもと個別に対応を行うことが出来ました。

- ・新型コロナウイルス感染症対策のため中止する行事が多く、実施できることが限られました。が、回数・場所の分散など、工夫し感染症対策を行いながら可能な限り実施することができました。
- ・大量給食調理マニュアルに沿った衛生指導を徹底し、食中毒を防止することが出来ました。

〈機能訓練〉

- ・自立支援を意識した『個別機能訓練計画書』を作成しました。ご入居者自身が自ら行動を起こしたくなるように興味関心を向けられる事柄を探り、希望を叶えられる環境を可能な限り整えました。また、自立心を妨げる過剰な介助介入を防ぐ為、介護方法や介護量の統一への意識を高めていきました。
- ・他職種間での情報を共有するため、パソコンの申し送り機能の活用及び、職員間での話し合いをこまめに行いました。後日『その後の様子に変化が見られるか』『更なる改善が必要かどうか』という確認を徹底した事で、ケアの見直しと統一を図る事ができました。
- ・WEB研修参加等により様々な知識を得る事ができました（研修内容は最新の介護機器の紹介と使用方法の研修や、褥瘡予防の為のスキンケア対策の研修）。学んだ事例を『特別養護老人ホーム』で活かせる様に応用させる事で、得た知識を活かせる様に働きかけました。職種を問わず必要な知識は会議の場を活用して情報共有を行い、各職種が共通認識のもとサービスが提供できるように努めました。

2. 組織の活性化

想像力を働かせて状態にあったケアができるユニットを目指し、各リーダーが職員1人を決め、人材の育成に努めました。対象職員だけでなく、他の職員からも「質問されることが増え勉強になっています。」との声も聞かれています。自由な意見を出し合える環境づくりにまでは至りませんでした。今後も環境を整え、実践したいケアが迅速に提供できる職場作りを目指したいと思います。

3. 感染症対策の徹底

新型コロナウイルス蔓延防止のための対策を周知・徹底し、ご入居者の体調管理や職員への注意喚起を定期的に行いましたが、クラスターの発生を防ぐことができませんでした。今後ともすべての感染を未然に防げるよう、感染対策の注意喚起を定期的に行って参ります。

4. リスクマネジメント

事故防止、再発防止については定年通り各ユニット会議にて、発生原因の分析・改善策について話し合いを重ね、ヒューマンエラーによるヒヤリハットを1つでも減らすよう努めて参りましたが、件数の減少につなげることができませんでした。来年度は事故予防委員会を設置し、委員を中心に評価・再検討をすることで重大事故を未然に防止したいと思います。

5. 防災対策

- ・施設全体で行われる防災訓練に参加し、改たな気づきや提案を防災委員に伝えることで、

防災委員会にて詳細な改善策を話し合うことができました。

- ・各ユニットで管理している発電機のガソリン量の確認ができていないことがありました。
毎月1回の試用運転、ガソリン量の確認もしっかり行って参りたいと思います。

行事

開催月	行事名	実施内容
4月	お花見	各ユニットにおいて食事会などを実施
5月～7月	運動会、おやつ作り、七夕	各ユニットにおいて感染予防のうえ実施
8月	花火大会	東西ユニット合同で実施
9月～11月	敬老会、ハロウィン	敬老会は、従来型とユニット型別々に実施
12月	クリスマス会	食事会を兼ねて実施
1月～3月	豆まき、ひな祭り	ひな祭りは、屋台やゲームなどを実施

※参考資料

(1) 入居利用者の実態

①介護度及び保険者（令和5年3月31日現在）

要介護度		要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計
総社市	男	0	0	1	6	4	11
	女	0	0	0	14	16	30
	小計	0	0	1	20	20	41
倉敷市	男	0	0	0	0	1	1
	女	0	0	0	2	0	2
	小計	0	0	0	2	1	3
高梁市	男	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	1	1	2
	小計	0	0	0	1	1	2
井原市	男	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	1	0	1
	小計	0	0	0	1	0	1
真庭市	男	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	1	1
	小計	0	0	0	0	1	1
吉備中央町	男	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	1	0	1
	小計	0	0	0	1	0	1
米子市	男	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	1	1
	小計	0	0	0	0	1	1

計	男	0	0	1	6	5	12
	女	0	0	0	19	19	38
合計		0	0	1	25	24	50

① 年齢構成（最高年齢：103歳、最少年齢：66歳、平均年齢：89歳）

	～64	65～ 69	70～ 74	75～ 79	80～ 84	85～ 89	90～ 94	95～ 99	100～	計
男性	0	0	2	3	2	3	1	0	1	12
女性	0	1	0	0	4	9	18	3	3	38
合計	0	1	2	3	6	12	19	3	4	50

② 年間の入退所状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
退所	0	0	0	1	0	0	2	0	1	1	1	0
入所	0	0	0	1	0	0	2	0	0	2	0	1

③ 退所理由

長期入院	他施設入所	在宅復帰	死去	(死去の内、施設内での看取り)
0名	0名	0名	6名	(3名)

(2) 稼働状況（平均稼働率：98.4%）

従来型

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
延べ利用者数	1500 (1480)	1524 (1550)	1465 (1483)	1512 (1549)	1550 (1489)	1491 (1425)	1495 (1497)	1440 (1465)	1521 (1527)	1521 (1493)	1388 (1392)	1544 (1550)	1496 (1491)
ベッド稼働率	100 (98.7)	98.3 (100)	97.7 (98.9)	97.5 (99.9)	100 (96.1)	99.4 (95.0)	96.5 (96.6)	96.0 (97.7)	98.1 (98.5)	98.1 (96.3)	99.1 (99.4)	99.6 (100)	98.4 (98.1)

() は令和3年度

(3) ショートステイ稼働状況（平均稼働率：81.8%）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
延べ利用者数	497 (437)	485 (248)	479 (488)	543 (445)	461 (474)	510 (511)	527 (535)	456 (509)	511 (514)	508 (547)	468 (489)	525 (495)	497 (474)
ベッド稼働率	82.8 (72.8)	78.2 (40.0)	79.8 (81.3)	87.6 (71.8)	74.4 (76.5)	85.0 (85.2)	85.0 (86.3)	76.0 (84.8)	82.4 (82.9)	81.9 (88.2)	83.6 (87.3)	84.7 (79.8)	81.8 (78.0)

() 内は令和3年度

(4) 待機者の状況 (※従来型とユニット型両施設希望者も含む。)

保険者	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
総社市	1	2	96	97	51	247
倉敷市	0	0	20	11	4	35
岡山市	0	0	2	1	1	4
高梁市	0	0	4	0	1	5
新見市	0	0	0	2	0	2
井原市	0	0	0	2	0	2
真庭市	0	0	2	0	1	3
矢掛町	0	0	1	2	0	3
早島町	0	0	0	1	0	1
吉備中央町	0	0	0	1	0	1
その他	0	0	1	0	0	1
合計	1	2	126	117	58	304

月	行事食	月	行事食
4月	お花見弁当提供	10月	秋の行楽弁当→中止
5月	デザートバイキング →各ユニット	11月	秋祭り → 中止
6月	大判焼き → 中止	12月	クリスマス弁当提供
7月	夏祭り中止 アイスクリーム提供	1月	お正月行事食 餅つき →中止
8月	お盆 アイスクリーム提供	2月	節分巻き寿司 握り寿司
9月	敬老会行事食提供	3月	ひな祭り寿司 握り寿司 大判焼き 綿菓子 たこ焼き提供

苦情状況

発生日	内容	対応
R5.3.15	R5.2.1 にショートステイ中、居室においてタンスの脇に倒れていた。ご家族と職員付添いで受診するも、骨折は見受けられず、R5.2.5 退所日まで利用継続。その後、自宅において状態が悪化し入院。ご家族からは、「本人も悪かったが、もう少し気を付けてほしかった。」「もう、ここには来ません。」と訴えてこられた。	ご本人が、タンスの中に入れて服を入れ替えようとして、タンスに体重をかけてしまったためにタンスごと転倒。顛末について説明するとともに、お詫びした。 改善策として、低重心のタンスを設置することとした。
R5.3.27	ショート退所後に施設からの	言葉の選択が不適切であり、ご家族を傷つけ

	<p>連絡表をご家族が確認したところ、ご本人が「机の周りを何度も物色している」との記述があった。物色という表現に心が傷ついた。家族として何をすればいいのか。との思いにかられてしまった。</p>	<p>てしまったことに対してお詫びした。また、ご家族への伝達事項については、口頭でつたえることとした。</p>
--	--	---

2. 特別養護老人ホーム（ユニット型）

ユニット型特養では、稼働率目標 97.0%に対し 95.9%の稼働率で1年を終えました。入院者 19名、退所者 15名という厳しい1年でした。特養ユニット型では新型コロナウイルス感染症のクラスター発生はありませんでしたが、対応マニュアルも完成しており、有事の際にはマニュアルに沿って速やかに対応して参ります。

行事等では、ユニット毎に工夫を凝らしながら、多くの行事を計画し、季節を感じて頂きながら楽しく過ごしていただくことができました。また、丁寧で細やかな支援を目指し、副主任を中心にユニット会議の度に状況の確認、意識づけを行って参りました。

サービスの質の向上

〈ケアマネ・相談員〉

- ・今年度も県内外においてコロナ感染の拡大が繰り返され、職員の感染も散発するなどしたため、ご家族が希望される面会制限を解除することができませんでした。ご家族に少しでも安心して頂くために、居室担当者からご家族に対して手紙や写真でご様子をお伝えしました。また、看取り期のご入居者にはご家族の面会を可能な限りお受けし、看護・介護職員と協同してご様子などをお伝えし、ご相談に応じました。
- ・虐待事例を生じさせることなく支援を行うことができました。ご入居者の心身の状態の安定のための医療的介入を実施するとともに、ストレスから職員が不適切ケアを生じてしまうことがないように、研修を通じて職員自らの気づきを促すよう努めました。
- ・ご入居者お一人おひとりの生活歴やご意向、関係職種からの情報や記録等、様々な情報から現在の状況把握を行い、個々に合わせたケアマネジメントに努めました。
- ・個々のケアプランに沿った細やかなケアを実践するために、介護副主任と協働して、業務改善や人材育成に取り組みましたが、新型コロナウイルス陽性に伴う職員の休業が相次ぎ、計画を思うように進めることができませんでした。引き続き、多角的な業務改善と人材育成に取り組み、多職種と連携して質の高いチームケアの提供を目指します。

〈看護〉

- ・多職種からのご入居者の状態報告を確認したり、必要時には自ら直接ご入居者を観察して異常の発見や緊急性の有無を判断し、速やかに対応することが出来ました。また、倫理観についても勉強会や行動チェックリスト等を用いて定期的に自己評価を行いました。その結果、看護師のご入居者への声かけや対応は徐々に変化し、ご入居者本位で質の高いサービスに繋

げることができました。

- ・新型コロナウイルス蔓延防止のための対策を周知・徹底したことで特養ユニット型で新型コロナウイルスのクラスター発生はありませんでした。また、「新型コロナウイルス対応マニュアル」の内容も再検討し、「特養ユニット型用」「特養従来型用」の2種類に分けて実情に沿った新たなマニュアルを作成しました。看護師全員が同じレベルで対応できるよう情報の共有にも努めました。

〈介護〉

- ・職員全員で自分の考えを提案・共有することで、ご入居者お一人おひとりに合わせた関わり方をすることができました。年度の途中では職員の体調不良などで出勤者の減少により時間をかけてご入居者と関わるのが難しくなりましたが、初心に戻り介護前の声の掛け方などを意識して、時間のない中で少しでも気持ちのこもったケアができるように取り組みました。
- ・「自分で考え・提案・実践できる職員を育てる」ことを目標に各ユニットで介護職員自らが自分の考えを引き出すことができるよう、人材育成に取り組みました。ユニット型特養の職員全員が取り組むのではなく、職員1人を中心にし、その職員に合わせた指導を行うことでより細かな指導が行えたと思います。今後は更に各職員が考えを提案・実践までにつなげていくことができるように育成していきたいと思います。
- ・リスクを含めた説明をすることで、事故予防に努めました。また重大な事故の原因や改善策については当該ユニットだけではなく、ユニット全体として検討することで、様々な方向から検討することが出来、事故防止に繋げることができました。

〈栄養（給食）〉

- ・食事摂取基準を基に介護状態及び食事形態を考慮した献立を作成し多職種連携のもと個別に対応を行うことが出来ました。
- ・新型コロナウイルス感染症対策のため中止する行事が多く、実施できることが限られましたが、回数・場所の分散など、工夫し感染症対策を行いながら可能な限り実施することができました。
- ・大量給食調理マニュアルに沿った衛生指導を徹底し、食中毒を防止することが出来ました。

〈機能訓練〉

- ・自立支援を意識した『個別機能訓練計画書』を作成しました。ご入居者自身が自ら行動を起こしたくなるように興味関心を向けられる事柄を探り、希望を叶えられる環境を可能な限り整えました。また、自立心を妨げる過剰な介助介入を防ぐ為、介助方法や介助量の統一への意識を高めていきました。
- ・他職種間での情報を共有するため、パソコンの申し送り機能の活用及び、職員間での話し合いをこまめに行いました。後日『その後の様子に変化が見られるか』『更なる改善が必要かどうか』という確認を徹底した事で、ケアの見直しと統一を図る事ができました。
- ・WEB研修参加等により様々な知識を得る事ができました（研修内容は最新の介護機器の紹介と使用方法の研修や、褥瘡予防の為のスキンケア対策の研修）。学んだ事例を『特別養護

老人ホーム』で活かせる様に応用させる事で、得た知識を活かせる様に働きかけました。職種を問わず必要な知識は会議の場を活用して情報共有を行い、各職種が共通認識のもとサービスが提供できるように努めました。

2. 組織の活性化

1人1人が考えることができるユニットを目指し、各リーダーが職員1人を決め、根拠を示し自分の考えを引き出せるよう指導に努めました。職員自身が自ら考え取り組む姿勢がみえてきていますが、自由に意見を出し合える環境づくりにまでは至りませんでした。今後も環境を整え、実践したいケアが迅速に提供できる職場作りを目指したいと思います。

3. 感染症対策の徹底

新型コロナウイルス蔓延防止のための対策を周知・徹底してきました。ご入居者の体調管理や職員への注意喚起を定期的に行いクラスターの発生を防ぐことができました。

4. リスクマネジメント

事故防止、再発防止については定年通り各ユニット会議にて、発生原因の分析・改善策について話し合いを重ね、ヒューマンエラーによるヒヤリハットを1つでも減らすよう努めてきましたが、件数の減少につなげることができませんでした。来年度は事故予防委員会を設置し、委員を中心に評価・再検討をすることで重大事故を未然に防止したいと思います。

5. 防災対策

- ・施設全体で行われる防災訓練に参加し、改たな気づきや提案を防災委員に伝えることで、防災委員会にて改善策を詳細に話し合うことができました。
- ・各ユニットで管理している発電機のガソリン量の確認ができていないことがありました。毎月1回の試用運転、ガソリン量の確認もしっかり行っていきたいと思います。

行事

開催月	行事名	実施内容
4月	お花見	各ユニットにおいて食事会などを実施
5月～7月	運動会、おやつ作り、七夕	各ユニットにおいて感染予防のうえ実施
8月	花火大会	東西ユニット合同で実施
9月～11月	敬老会、ハロウィン	敬老会は、従来型とユニット型別々に実施
12月	クリスマス会	食事会を兼ねて実施
1月～3月	豆まき、ひな祭り	ひな祭りは、屋台やゲームなどを実施

※参考資料

(1) 入居利用者の実態

①介護度及び保険者（令和5年3月31日現在）

要介護度		要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計
総社市	男	0	0	2	4	0	6
	女	0	0	7	5	10	22
	小計	0	0	9	9	10	28
倉敷市	男	0	0	0	0	1	1
	女	0	0	0	1	0	1
	小計	0	0	0	1	1	2
計	男	0	0	2	4	1	7
	女	0	0	7	6	10	23
合計		0	0	9	10	11	30

④ 年齢構成（最高年齢：102歳、最少年齢：68歳、平均年齢：89歳）

	～64	65～ 69	70～ 74	75～ 79	80～ 84	85～ 89	90～ 94	95～ 99	100～	計
男性	0	1	0	0	3	0	2	0	1	7
女性	0	0	0	1	3	7	6	6	0	23
合計	0	1	0	1	6	7	8	6	1	30

③年間の入退所状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
退所	0	0	2	0	1	0	0	1	1	6	1	4
入所	1	0	1	1	1	0	0	0	2	4	2	4

④退所理由

長期入院	他施設入所	在宅復帰	死去	(死去の内、施設内での看取り) (7名)
3名	1名	0名	12名	

(2) 稼働状況（平均稼働率：95.9%）

ユニット型

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
延べ利用者数	900 (853)	930 (835)	872 (883)	921 (900)	927 (899)	900 (871)	903 (930)	856 (894)	816 (926)	781 (917)	789 (798)	901 (861)	874 (880)
ベッド稼働率	100 (94.8)	100 (89.8)	96.9 (98.1)	99.0 (96.8)	99.7 (96.7)	100 (96.8)	97.1 (100)	95.1 (99.3)	87.7 (99.6)	84.0 (98.6)	93.9 (95.4)	96.9 (92.6)	95.9 (96.5)

() 内は令和3年度

(3) 待機者の状況 (※従来型とユニット両施設希望者も含む。)

保険者	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
総社市	1	1	37	37	10	86
倉敷市	0	0	6	1	1	8
高梁市	0	0	3	0	0	3
新見市	0	0	0	1	0	1
早島町	0	0	0	1	0	1
その他	0	0	1	3	0	4
合計	1	1	47	43	11	103

月	行事食	月	行事食
4月	お花見弁当提供	10月	秋の行楽弁当 →中止
5月	デザートバイキング→各ユニット	11月	秋祭り →中止
6月	大判焼き →中止	12月	クリスマス弁当提供
7月	夏祭り中止 ソフトクリーム提供	1月	お正月行事食 餅つき→中止
8月	お盆 ソフトクリーム提供	2月	節分巻き寿司 握り寿司
9月	敬老会行事食	3月	ひな祭り寿司 握り寿司 大判焼き 綿菓子 たこ焼き提供

苦情状況

発生日	内容	対応
R4.12.5	<p>男性ご入居者のご家族（長男 嫁）より</p> <p>ご入居者が夜間帯に居室で転倒。夜勤者は、他入居者のコール対応で直ちに居室に行き状況を確認することができなかった。</p> <p>状況確認までに時間が経過したことに対して、放置されているのではないか。虐待ではないか。との気持ちが芽生えて胸の内を訴えてこられた。</p> <p>また、看護職員が第一報で状況報告をした際のやり取りの行き違いや伝え方（言い回し）が、ご家族を憤慨させてしまった。</p>	<p>相談員がご家族に電話連絡し、まずは第一報に際しての不手際や転倒された際の対応について、ご心痛をお掛けしたことをお詫びした上で、お気持ちや訴えを全てお伺いした。ご家族の気持ちが落ち着いてこられた段階で、ご入居者の転倒時の対応や受診対応などについて丁寧に説明。医師の指示を得ながら対応したことについて理解を求めた。</p>

3. G&Rデイサービスセンター

今年度は月平均 3.5 名、計 42 名の新規受け入れを行う事が出来ました。一方で、複数回利用者の相次ぐ契約終了や、コロナ感染症予防の為、県外者との接触を理由に利用控えとなったケースが多数発生した事等により、稼働率は低迷したまま一年を終えてしまいました。

また、他事業所と差別化を図る為に学習療法の導入を進めていましたが、実施までには至る事が出来ませんでした。

しかし、当デイサービスにおいてコロナ感染症によるクラスターの発生はなく、事業を継続することができており、感染予防対策は適切に行なっているのではないかと思います。また学習療法についても着々と準備は進んでおり、令和 5 年度に向けて前進できるよう、意識を切り替えていきたいと思えます。

1. サービスの質の向上

〈相談〉

ご利用者の小さな体調不良でも報告し、ケアの方法から着替えや持ち物に関する事まで幅広く細目にご家族の意向確認を行うと共に、その内容を申し送りや会議等において職員全員で情報を共有した結果、ご家族・ご利用者のニーズに沿ったサービス提供に繋げる事が出来ました。また、その都度ケアマネジャーへの報告や情報の共有・連携を確実にを行う事で、各事業所の意見や考えを聞く機会を持つ事も出来ました。さらには、ご利用者・ご家族からのご要望やケアマネジャーからの依頼等に対し、可能な限り対応する姿勢を崩さなかった事で関係構築を図る事が出来たと思えます。

〈看護〉

異常時の報告を迅速・詳細に行った事で、必要な処置内容の変更や多職種間での情報共有をスムーズに行う事が出来、在宅生活継続の問題発生に対して積極的にケアプランに沿ったケアが実施出来たと思えます。機能訓練では、個々のご利用者に適した計画を作成・実施し、身体機能の把握と適切な運動の提供を行った結果、ご高齢なりにも「動ける体」を維持していただく事が出来ました。

〈介護〉

年間を通してご利用者数が少なかった事もあり、「待つ」事は比較的实施出来ました。しかし、ご利用者の動作を待たず職員が介助してしまう場面もあった為、ご利用者の残存機能維持の妨げとならないよう継続して留意していく必要があります。「見る・聴く」事に関しても、ご利用者の身体的異常の早期発見や、若い頃の話や好きな物の話等を多く聞く事が出来ました。ご利用者をご自分で話される事から、本人の能動的な行動を引き出す事が出来た事案もありましたが、十分とは言えないと感じており、今後も継続して取り組む必要のある課題だと思えます。

2. 組織の活性化

収集した情報は、反省会やデイ会議等にて職員間での共有及び検討を図る事で、一貫したサービスの提供を実施しました。しかし、職員間で認識のズレが生じている事柄もあった為、原因の

追究及び必要箇所の改善に取り組み、意識と業務の標準化を今後も継続して行って参ります。

3. 感染症対策の徹底

手洗いや手指消毒、物品の管理・消毒、アクリルボードの設置、インカムの使用等徹底した実施を行い、新型コロナウイルス感染症予防対策に努めました。併せて、職員へも新型コロナウイルスに感染しない・持ち込まない為の注意喚起を定期的に行いましたが、職員3名の感染者が発生してしまいました。しかし、感染が広がる事はなく終息させることができました。令和5年度は新型コロナウイルスが第5類へ移行する事等を踏まえ、厚生労働省の通知や感染状況等を注視しながら自事業所に則した感染症対策に努めて参ります。

4. リスクマネジメント

交通事故予防については、朝礼時に安全運転実施に対する注意喚起を行うと共に、各職員の運転技術を考慮した配車割を行いました。1件の接触事故が発生してしまいました。しかし、停車中の送迎車両に対し後方から相手車両が追突してきた事案であり、迅速に問題なく対応が出来ています。

介護事故発生防止については、ヒヤリハット報告書が提出された際、発生原因を徹底的に追求し、確実に実行できる改善策の策定と実施に努めました。また、デイ会議ではヒヤリハットの振り返りを行い、改善策実施の確認及び改善策の修正を図りながら再発防止に努めた結果、事故発生はありませんでした。しかし一方で、見守りの甘さを感じており、「見守り力の向上」が今後の課題であると思います。

5. 防災対策

施設全体で行われる火災を想定した避難訓練に参加しました。実際に火災が発生した場合を想定しながら避難経路を自分達で考える事で、多くの気づきを得る事が出来ました。

行事

開催月	行事名	実施内容
4月	茶の湯を楽しむ会	茶道を体験する
5月	染まれ！！幸せの黄色いハンカチに	玉ねぎの皮を使用し草木染をする
6月	情景を思い浮かべて	朝顔に関する俳句3句を壁画と併せ視覚化する
7月	暑い夏…そうだ！暑中見舞いを出そう！	ステンシルで絵葉書を描き暑中見舞いを作成
8月	私の夏カメラ	利用者に「夏」を感じる写真を撮って頂きフォトフレームにする
9月	クイズ☆日本むかし発見！！	チーム対抗で画像や寸劇から出題されるクイズに答える
10月	農スポーツ大会	農作業を彷彿させる競技でのスポーツ大会

11月	グリリバツアーズ第2弾「謎の国群馬県へ」	群馬県の観光地をバーチャル旅行で巡る
12月	やさしさの贈りあい	利用者と職員間で年賀状のやり取りをする
1月	笑って↑笑って↑	福笑いをする
2月	M(昔遊び)・1グランプリ	昔遊びをチーム戦トーナメント方式で競い合う
3月	心の暦 ～一生感動・人間だもの～	利用者の心に残っているエピソードを聞き、価値観等に多様性があると再認識し利用者理解に繋げる

苦情状況

発生日	内容	対応
なし	なし	なし

4. 居宅介護支援事業所

令和3年度は職員の異動や当法人内での新型コロナウイルス感染症によるクラスター発生に伴い稼働率を高位で推移することができなかった為、今年度は稼働率を100%達成できるように新規受け入れに努めましたが、12月以降の度重なる施設入所等による契約終了が続いたことで、新規受け入れを行っても持ち件数を高位で推移することができませんでした。令和5年2月末の実地指導では運営基準減算による報酬返還や是正改善指導なく終えることができました。

1. サービスの質の向上

前年度に作成した勉強会・研修会計画に沿って部署内では資料や書籍、動画を活用しながら勉強会を行い、主任介護支援専門員の資格保持に必要な外部研修に参加しました。部署内での勉強会や外部研修に参加することで専門職としての知識の習得等ができ、日々のケアマネジメントに対して理解を深めることができました。また介護サービスが利用者にとってより良いものになる為に介護保険等関連情報等を活用し、PDCAサイクルを用いてマネジメントできるように努めました。

2. 組織の活性化

職員1名退職したことで1人体制となりましたが、意見交換や協議ができるよう上司に参加してもらい、毎月居宅ミーティングを開催しました。全てのことを1人で行わなければならなくなりましたが、居宅ミーティングにて意見交換や協議をすることで、負担が増すことなく業務を行うことができました。

3. 感染症対策の徹底

感染症の予防及びまん延の防止について施設内で行われる研修会の参加や情報の収集を行い、その都度感染症対策の見直しを行いました。また職員の体調管理や日々の業務の中での手

洗い・手指消毒・マスクなどを着用し、感染症を持ち込まない・持ち出さないよう努め、感染することなく業務を行うことができました。

4. リスクマネジメント

年2回は自己点検シートを用いて、自らの業務の振り返りや運営基準減算項目について再確認をすることで必要な記載事項や書類の見直しを行い、個人ファイル等の修正等を行うことができました。また相手の立場になって物事を考え、状況把握を行い、職員の言動や態度でトラブルやクレーム発生とならないよう注意喚起や接遇の向上を図ることで、今年度の苦情発生はありませんでした。

5. 防災対策

施設内における防災訓練に参加し、法人内での災害時における初期対応や避難援助ができるよう知識の習得や技術の向上に努めました。また習得した知識を必要に応じてご利用者及びご家族に発信することができました。災害が発生した場合であっても介護サービスが継続的に提供ができるよう体制構築を含めた業務継続計画の策定についてはまだ未完成の為、次年度中には完成するように努めます。

苦情状況

発生日	内容	対応
なし	なし	なし

5. ケアハウス

今年度も新型コロナウイルス感染症の流行に注意し、手指消毒やマスク着用などの感染予防対策に努めてきました。予防対策の徹底により、ケアハウス内の新型コロナウイルス感染者は1名しか発生せず、幸いにも他のご入居者には感染しませんでした。しかし、昨年度同様、ご入居者には面会や買い物などの外出制限を設けざるを得なかった為、それに掛かるストレス緩和や楽しみを持つために、コロナ禍でもご入居者が参加できる行事等を考え、取り組んで参りましたが、ご入居者の方には窮屈な1年となってしまいました。

1. サービスの質の向上

〈相談〉

ご入居者の状態を把握し、異常がある場合は速やかにケアマネジャーや家族と連携して適切な介護保険サービスの利用ができたことで、ケアハウスでの生活継続を図る事が出来、昨年度に比べて退居者数も減少しました。入退去の際に工事や清掃、ご入居者やご家族の引越しの日程の都合により、空床が発生しましたが、稼働率は平均 96.9%と高値を保つことができました。

〈介護〉

昨年度同様、コロナ禍でも楽しんで頂ける行事を企画・実施しました。参加者が少数になることもありましたが、日々の生活にメリハリをつけることが出来たと思います。

また行事やレクリエーションについて強制ではなく、任意で参加して頂くことでご自身のペースで生活していただけたと思います。

2. 組織の活性化

今年度から月に1度のミーティングを開催することで、職員全員でご入居者の状態やケアハウスの状況を共有し、速やかに課題解決に向けた行動や意識の統一を図る事が出来ました。また職員一人しか知らない情報がないようにすることで、ご家族やご入居者からの相談ごとへの回答などスムーズに行えるように連携を図りました。

3. 感染症対策の徹底

手指消毒やマスクの着用、ご入居者の外出制限など様々な対策を講じることでケアハウス内での感染症発生は、コロナ感染者が1名、インフルエンザ感染者が0名であり、感染拡大することはありませんでした。またコロナ感染者が発生した場合を想定し、エプロンやマスク、アルコール消毒液などの準備物や職員の動きなどシミュレーションを行うことで、有事が起こった際、迅速な対応ができるよう備えることができました。

4. リスクマネジメント

ご入居者の身体機能の低下により室内等での転倒はありましたが、著しく転倒リスクが増大したご入居者については、適切な介護保険サービスの開始や共有スペースの環境整備を行い、転倒リスクを下げる事が出来たため、事故は発生しませんでした。

また、ご入居者からの苦情やクレーム防止のため、ケアハウスでの取り決めや連絡事項を懇談会などで発信し、ご入居者全員に再度の周知と意識統一を行いました。必要な場合はご家族にも連絡し、情報共有を行った結果、ご家族からのクレームは無くご入居者からのクレームも同じ事柄で繰り返し発生することはありませんでした。

5. 防災対策

今年度も避難方法など必要事項を懇談会にて発信を行い、火災を想定した避難訓練を2回（夜間、昼間想定）実施しましたが、ご入居者の中には放送が聞こえなかった方や避難方法を理解できなかった方もおられました。今後全員が無事に避難して頂ける様、対応策を考えていきたいと思えます。

(1) 入居者の実態

①要介護度及び保険者（令和5年3月末現在）

	自立	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
総社市	5	1	6	0	0	1	0	0	13
岡山市	0	0	0	1	0	0	0	0	1
津山市	0	0	1	0	0	0	0	0	1

②年齢構成（最高年齢：98歳、最少年齢：70歳、平均年齢：83.7歳）（令和5年3月末現在）

性別	～64	65～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90～	合計
男性	0	0	1	1	0	2	0	4
女性	0	0	2	1	2	3	3	11

③ 在籍年数（平均2年7か月）（令和5年3月末現在）

年数	1年未満	1年以上～ 3年未満	3年以上～ 5年未満	5年以上～ 8年未満	8年以上～ 10年未満	10年以上
人数	3	8	1	2	0	1

④ 入退居状況

退居者数 3名（長期入院：2名、他施設入所：1名、死亡退去：0名）

入居者数 4名

(2) 懇談会開催状況

開催日	懇談内容	出席者数	出席職員数
令和4年4月14日(木)	防災訓練について	10名	5名
令和4年6月21日(火)	かくれ脱水について	12名	5名
令和4年9月22日(木)	口腔ケアについて	8名	3名
令和5年1月25日(水)	ノロウイルスについて	9名	5名
令和5年3月10日(金)	便秘について	12名	5名

※令和4年3月実施予定だった懇談会をコロナで延期した為、令和4年4月で実施。

(3) 行事活動実施状況

実施月	実施内容
4月	お花見ドライブ、お茶会
5月	バーベキュー、えんどう収穫、ホームページ写真撮影
6月	スイーツビュッフェ、芋の畑作り、芋植え
7月	フルーツビュッフェ、壁面制作（花作り）、実地指導、避難訓練
8月	貼り絵、枝豆収穫、おやつ（スイカ提供）
9月	壁面制作（貼り絵）、かき氷、敬老会（紅白花作り）、アイスクリーム
10月	おやつ（カップケーキ）提供、壁面制作（柿作り）、さんま炭火焼き、避難訓練 花植え
11月	芋づるスジとり、紅葉ドライブ、壁面制作
12月	おやつ（サツマイモ）提供、貼り絵、えんどう植え、忘年会、おやつ（クリスマスケー ーキ）提供
1月	おやつ（サツマイモ）提供、新年会、おひなさま作り
2月	おひなさま作り、おやつ（さつまいも）提供、握りずし

3月	壁面制作、入社式（紅白花作り）、すき焼き、お花見ドライブ
----	------------------------------

※レクリエーション：週1回、百歳体操：週1回、買い物：月1回、習字：月1回

※R5年4月に予定していたお花見ドライブを桜の開花状況により変更し、令和5年3月に実施。

(4) 苦情状況

発生日	内容	対応
なし	なし	なし

6. 地域包括支援センター

コロナウイルス感染症の制限も徐々に緩和されてきましたが元の生活に戻ることが出来ず、外出や運動の機会が減り介護認定を受けられる方が多くなった一年でした。地域包括支援センターとしましては、重度化予防と自立支援のため早期介入と適切なサービス利用の提案に努めていくことが出来ました。また、総合相談について複合化した課題に対応できるよう各職員のスキルアップとより細やかな相談対応ができる体制づくりに努めてまいりました。

1. サービスの質の向上

多様な課題の解決のために介護保険サービスに頼るだけでなく地域の社会資源や福祉制度の利用について提案できるよう知識の習得に努めて参りました。また、相談機能の強化を目指し、3職種がそれぞれの強みを生かすことが出来るようケース共有を定期的に行えるようにしました。

2. 組織の活性化

3職種の業務について再度確認を行うことで、業務分担の明確化と効率化を図るとともに、不在時でも業務の代行が行えるような体制づくりに努めることが出来ました。

3. 感染症対策の徹底

今年度も引き続き手洗い、手指消毒、マスク着用など感染症対策に努めながら訪問活動を行うことが出来ました。認知症カフェや小地域ケア会議など地域活動についても感染症対策を徹底しながら継続的に開催をすることが出来ました。

4. リスクマネジメント

総合相談や高齢者虐待への対応など緊急時の対応が必要なケースについて担当者不在でも対応が行えるよう進捗状況について3職種間で日常的に情報共有を行う時間を設けることにしました。

5. 防災対策

発災時に施設内の利用者の避難誘導の援助がスムーズに行えるように施設内での防災訓練、避難訓練に参加することが出来ました。

苦情状況

発生月日	内容	対応
なし	なし	なし